

令和元年度事後評価 総合評価 一覧

課題名	期間	研究代表者	所属	研究費(千円)	総合評価	研究評価委員会 総合コメント
短寿命α線核種の合理的規制のためのデータ取得による安全性検証と安全管理・教育方法の開発	平成29年 ～30年	篠原 厚	大阪大学	27,834 (1年目:16,870) (2年目:10,964)	A	目的とした成果が得られており、放射線規制への貢献度は非常に高い。得られた成果を踏まえ、今後は対象核種を広げるなど安全管理ガイドラインの策定につなげてほしい。
短寿命α核種等のRI利用における合理的な放射線安全管理のあり方に関する研究	平成29年 ～30年	細野 眞	近畿大学	7,132 (1年目:2,954) (2年目:4,178)	C	得られた成果は限定的で、放射線規制及び放射線防護分野への貢献度が十分ではない。また、海外調査と成果との関連が不明確である。海外調査においては、その目的を明確にすることが望まれる。
加速器施設の廃止措置に係わる放射化物の測定、評価手法の確立	平成29年 ～30年	松村 宏	高エネルギー ー加速器研 究機構	58,830 (1年目:28,696) (2年目:30,134)	B	費用対効果に改善の余地はあるものの、放射線規制への貢献度は高い。得られた成果を活用し、加速器施設の廃止措置に関わる放射化物の測定・評価手法の標準化を早期に進めることを期待する。また、このような調査研究に若手研究者を参加させることにより、今後の若手の人材育成に資することを期待する。

原子力・医療従事者等の標準的な水晶体の等価線量モニタリング、適切な管理・防護はどうあるべきか？～水晶体被ばくの実態から探る～	平成 29 年 ～30 年	横山 須美	藤田医科 大学	28,028 〔1年目:22,314〕 〔2年目:5,714〕	B	医療施設における教育プログラムの開発については成果が不十分であるが、原子力従事者に関する成果はよくまとめられており、全体としては重要な成果が得られている。報告書の一部の誤記等については、正誤表の作成等の対応が必要と考えられる。今後、報告書の作成に当たっては、内容の充実とともに、体裁等についても丁寧に確認されるべきである。
水晶体の等価線量限度の国内規制取入れ・運用のための研究	平成 29 年 ～30 年	千田 浩一	東北大学	16,426 〔1年目:6,547〕 〔2年目:9,879〕	B	放射線防護分野への貢献度は高く、現在検討が進められている医療分野のガイドラインへの反映が望まれる。
眼の水晶体等価線量評価に用いる線量計の試験校正手法の開発	平成 29 年 ～30 年	加藤 昌弘	産業技術総 合研究所	14,728 〔1年目:8,452〕 〔2年目:6,186〕	B	β線の標準場の確立という点で放射線防護分野への貢献度は高い。
「放射線業務従事者」としての「指定」の在り方に関する検討:原子力施設等と医療施設の比較	平成 29 年 ～30 年	草間 朋子	東京医療保 健大学	4,003 〔1年目:2,014〕 〔2年目:1,989〕	B	実態調査は評価できる。関連団体等との合意形成が今後の課題としてあるが、成果としてまとめられたガイドライン案が将来的に放射線防護に反映されることを期待する。

* 評価基準： A: 非常に有用な成果が得られた、B: 有用な成果が得られた、C: 限定的ではあるが有用な成果が得られた、D: 有用な成果が得られなかった